

バヒアグラスの特性と栽培法

本誌1~2頁で御紹介いたしました草地技術研究大会の討論会で、九州農試畜産部松本聡技官より、バヒアグラスとダリスグラスについて御発表がありました。紙面の都合でバヒアグラス Bahia grass のみを要旨掲載いたします。

(1) 品種ならびにその特性

- ① ペンサコラ Pensacola
U. S. A. ジョージア州立農試で育成された品種、葉幅がせまく、種子は小さい。
耐寒性が強く、施肥効果が大きい。
- ② コモン種 Common
中米のキューバおよびコスタリカから、古く種苗商によって U. S. A. 南部へ導入された葉幅の広い在来種、他の品種に比べて耐寒性はきわめて弱く、わが国では実用に適しない。
- ③ アルゼンチン Argentine
U. S. A. フロリダ州立農試でアルゼンチンから導入した種子から草型によって選抜した品種、葉幅はペンサコラより広く、コモンより狭い。耐寒性は中程度。麦角病に弱い。
- ④ ウイルミントン Wilmington
U. S. A. ノースカロライナ州ウイルミントン近郊の自生種を増殖したもので、葉色は濃緑色で葉幅は狭い。耐寒性は他の品種に比較して強い。
- ⑤ パラガイ Paraguay
来歴は明らかでなく、草質は粗剛でペンサコラにくらべ葉幅は広く、葉長は短く毛が多い。
- ⑥ パラガイ 22 Paraguay 22
パラガイから導入し、U. S. A. ジョージア州立農試で選抜した品種。
- ⑦ テイフハイ 1 Tifhi 1
U. S. A. ジョージア州立農試で育成された単交雑の品種、ペンサコラよりやや多収で、収量、採種量とも多い。
- ⑧ ペンサコラ×コモン Pensacola×Common
ペンサコラとコモンを交配して得た3倍体、U. S. A. ジョージア州立農試で育成した品種。ペンサコラにくらべて葉幅が広く、草質はよいが耐寒性が弱い。

(2) 栽培法

播種期は5月中・下旬で、播種量はa当り200~300gであるが、発芽率が低い場合があるので注意を要する。肥料に対する感応は播種当年はほとんどないが、第2年以降は各要素の施用効果があり、窒素追肥効果は著しい。基肥としては、非火山灰土壌ではa当り窒素0.5、燐酸0.5、加里0.5、堆厩肥50~100kgとし、火山灰土壌では窒素0.5、燐酸1.0、加里0.5、堆厩肥100~150kgとする。刈取り後の追肥は各刈取りごとに窒素0.3、加里0.3kg施用する。第2年以降には、播種当年の基肥に当たる量を早春に施し、各刈取り後の追肥は播種当年に準ずる。この草は初期成育は夏雑草に負けやすいので、梅雨あけまでは雑草におおわれないように除草、あるいは除草剤の散布をしなければならない。病害としては葉腐病が発生するぐらいで、一般には病害の発生はすくない。虫害としてはアワヨトウ、バッタ、キリギリス類が主なものである。線虫類ではラセンセンチュウが寄生する。収穫期は播種当年では7月中~9月下旬であるが、次年度以降は6月中~9月下旬まで利用出来る。草丈30cmぐらいの時期で刈れば成育期間中に7回刈りができる。収量は春播きのため播種当年はa当り400~500kgですくないが、第2年以降は900~1,200kgである。利用は青刈り、放牧に適している。